〈研究短報〉

栄養科との多職種連携教育を通した成人看護学実習における学生の学び

佐藤幹代[*1]・庄村雅子[*1]・小島善和[*1]・大山　太[*1]・石井宏明[*2]・藤井穂波[*2]

Ⅰ．はじめに

2004年度より、慢性期にある患者を対象とした成人看護学実習において、栄養科に所属する管理栄養士からの臨床講義と、実際に病院食を試食する実習を約１時間実施し、多職種連携の大切さを学ばせる機会を設けている。栄養科は、入院患者に必ず患者とかかわり「食」という人間の基本的な欲求を満たし、療養上も重要な支援を提供すると共に、看護との結びつきの深さが学生に理解しやすいと考える。

そこで、管理栄養士と連携した看護実習教育の実践から学生の学びを明らかにした。

Ⅱ．研究目的

臨床の場で栄養士から得る知識や、試食を通した学生の学びを明らかにし、栄養をめぐる多職種連携教育に関する実践に有用な看護教育の在り方を検討する。

Ⅲ．方　法

2008年９月～10月の期間で、成人看護学実習（慢性期）の単位を修得し、研究協力の承諾の得られた３年後期学生の栄養科試食実習における学びのレポート22部。Berelson.B の内容分析を参考に分析を行った。本学倫理審査の承認を得た。

Ⅳ．結　果

レポートの記述は20,729文字であった。個別分析では213コードが導かれ、全体分析で42コード、17サブカテゴリー５カテゴリーへまとめられた（表１）。栄養科実習を通した学生の学びのカテゴリーを中心的な意味内容から関係性を検討し図示した（図１）。

Ⅴ．考　察

栄養科での試食実習において学生は、【食の大切さの認識の高まり】【管理栄養士による専門性の探求への感銘】【栄養科と多職種とが連携する重要性の認識】など、人にとっての「食」の重要性を改めて強く認識する学びを得ていた。学生は食の大切さの認識が深まると、患者の目線で「食」を考え、患者の立場で親身に食べやすさを追求する栄養士の姿勢や、食環境の整備に　尽力している栄養科の実践の多様性について感銘を抱き、栄養士を医療チームの一員として認識するよう学びを深めていた。次に、臨床栄養の存在、栄養科と管理栄養士の役割、意義を強く認識し理解すると、栄養科と看護職が連携していく重要性が認識され、ステップを踏んで学びが深化する構造が示唆された。栄養に関する看護教育の評価や、近接領域の多職種と連携した実践的な講義と実習の構築をはかることが今後の課題である。

＊１　東海大学健康科学部（Department of Nursing, School of Health Sciences, Tokai University）
＊２　東海大学医学部付属病院栄養科（Department of Nourishment, Tokai University Hospital）

表１　栄養科実習を通した看護学生の学び

全体分析のコード（42）　＊一部削除あり	サブカテゴリー（17）	カテゴリー（５）
・人にとっての食の重要性を深く認識する ・食への関心が高まる ・すべての食事を治療の一環として改めて大切に考える ・効果に応じた多様な入院治療食があることを知る	・食の重要性の再認識と関心の深まり（15） ・治療の一環としての食の大切さの実感（18）	食の大切さの認識の深まり （23，10.7％）
・健康な自分たちには治療食がおいしいことに驚く ・患者と同じ食事をとることは患者の気持ちの理解につながる貴重な経験 ・食べてみて改善点が浮かぶ ・治療食の経済的側面について考える機会を得る	・治療食がおいしいことに驚く（11） ・治療食を食べ患者の目線で食を考える貴重な機会を得る（15） ・食の経済的側面を考える機会を得る（１）	患者の目線で食を考える機会を得る （27，12.6％）
・多様な食事を提供している栄養科の取り組みに感銘を受ける ・栄養科は患者の食を通し治療を支える重要な存在 ・免疫力の低い患者に食事提供するため栄養科全職員の衛生管理への高い意識に関心させられる　他１つ ・食の安全な提供のための栄養科の構造上の工夫を知る ・治療食の名称においても患者のプライバシーに配慮していることを知る	・食を通し医療を支える栄養科の存在の重要さの認識（22） ・食の安全性と安心の確実な提供と意識の高さへの関心（22） ・食に関わるプライバシーの厳守（１）	食を通し医療を支える栄養科の重要さの認識 （45，21.2％）
・栄養士が対応する食の問題の多様さと難しさを痛感する ・管理栄養士どうしが連携してよりよい食を探求する厳しさをもつ ・口から食べられなくても食事をしている感覚が得られることを大切にしていることを知る　他１つ ・患者の意見を食事に反映させるよう努力している ・入院中も食を楽しめる工夫をしていることを知る ・口から食べられるようにする、食欲を増す取り組みも栄養士の重要な役割と知る ・食欲のない患者用の独自の食事を開発していることを知る ・ゼリー食の種類による食べにくさと嚥下訓練への有用性の認識 ・小児に対する食の繊細さと生きる糧となる工夫の実感　他１つ ・栄養科では様々な食事制限のある患者に退院後の生活に役立つ栄養指導を行う重要な役割を担っていることを知る	・管理栄養士の複雑な責務と厳しい探求への尊敬（７） ・食べられない患者にも食事の感覚をもてるよう気遣いをもつことへの感銘（４） ・配膳から食事内容まで食べてもらうための多数の工夫への感銘（19） ・親身になって食べられるよう取り組むことに圧倒される（22） ・親身になって食べられる方策を考える取り組みを知る（５） ・栄養指導での役割と活躍を知る（４）	管理栄養士による専門的実践の探求への感銘 （61，28.6％）
・身体状況と治療食に関し多職種と情報を共有し、患者の個別性を考慮して食事を提供していることを知る ・食に関する多職種の意見を取り入れる努力を知る ・食事の工夫に看護師の意見がとりいれられていると知る ・栄養科の努力に刺激され，看護師として食事支援を頑張ろうと思う ・栄養科との良好な関係を築いていきたいと願う ・栄養士も同じく患者を思うチーム医療の一員と再確認する	・多職種との連携を大切にし患者の食への満足を追求する真摯さへの尊敬（22） ・食の工夫に看護師の意見がとりいれられていると知り栄養に関する看護への取り組みを動機づけられる（17） ・栄養科と良好な関係を築きチーム医療に当たりたいと願う（８）	栄養科と多職種とが連携する重要性の認識 （47，22.0％）

＊（　）の数字は記述単位数，％は全記述単位数213に占める比率を示す。

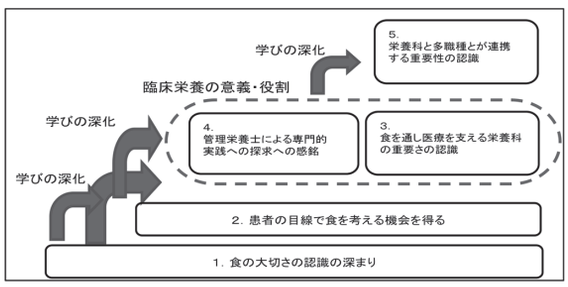

図１　栄養科実習を通した看護学生の学びの構造
枠：カテゴリー